生活記録なごみ

伝統や生活文化等の移り変わりを後世に伝える文集として、生活記録なごみが第17集を迎えます。これまで分館のご協力による募集としておりましたが、今回から自由応募へと変更しました。戦争に関する記憶など、職員の取材による寄稿もできます。

たくさんのご応募、ご依頼をお待ちしております。

社会教育課

戦後80年の記憶

「早く帰ろう」父の手を引く妹

下津田　竹下俊二（91）

１９４４（昭和19）年、私が10歳のとき、父に召集令状（赤紙）が来た。

母は黙って何も言わなかった。私は、兵隊に行くことは国のためと思って元気に送った。省営バスの木炭車が津田下バス停に迎えにきて、村の人たち、区長さん、婦人会、青年団と多くの人たちが日の丸の小さな旗を持って送った。軍服に赤たすきを掛けた父の姿と、「勝ってくるぞと勇ましく」という父のあいさつの言葉を鮮明に覚えている。

まだ30代だった母のそれからの苦労は、口では言い表せないことばかりだった。

１カ月後、熊本の兵舎から便りが来て、祖母、兄、妹と面会に行った。３歳の妹が「父ちゃん、早く帰ろう」と手を引っ張った。「父ちゃんは兵隊さんだけん、帰られんと」と父は言い、妹は黙って下を向いていた。

その夜は親戚の家に泊まった。ちょうど空襲警報が鳴り、座布団を頭の上からかぶり防空壕に入った記憶がある。その後、父からは何の便りもなかった。

戦争は身近に迫っていた。梅干しで穴が開くこともあったアルミの弁当箱も、金属類回収令からは免れなかった。学校に供出に行くと、私のお気に入りは唐鍬（とうぐわ）で叩き潰され、本当に辛かった。それからは、切った孟宗竹に弁当を詰めた。家には、仏壇の鐘だけ戻ってきたのを覚えている。

学校では戦勝報告や旗行列が行われ、教育勅語を教わっていたが、空襲警報のため授業は中断されるようになり、登校は週一回に減った。各地区の公民館で分散授業が始まり、女学校の生徒さんが教えに来てくれていた。下津田には明治戦争の時に大砲で開いたと言われる横穴があるが、空襲警報が鳴ると、みな桑畑の中に逃げ込んだ。勉強はあまりなく、わら草履を作っていた。また、養蚕農家の畑に行って桑の皮をむき、兵隊さんの服の繊維にするため天日で乾燥し、学校に出した。繊維を取るため、畑でラミー（ポンポン草）を栽培している家庭もあり、現金収入となっていた。

近くで演習があると、兵隊さんに唐芋を提供しに行き話を聞いた。男の子は戦争ごっこに興じ、夜のスズメバチ退治も遊びの一つだった。女の子の間では、日露戦争を題材にした手毬唄が流行っていた。「一列らんぱん（談判）破裂して　日露戦争始まった　さっさと逃げるはロシアの兵…（※1）」。歌は20番まであり、綿で作った毬を最後は背中に乗せて遊んでいた。

当時の食事はというと、唐芋やかぼちゃなど、食べ物はあるのでひもじい思いはしなかったが、やはり供出しているため米が少ない。ご飯は唐芋、かぼちゃ、麦など混ぜて炊いてある。子どもなのでどうしても我慢できず、「なるだけ米の多かとこばちょうだい」と頼むと、祖母が集めるようにして、よそってくれた。

周囲には20歳で兵隊検査に通り、兵役を終え帰ってきた人もいた。ある日、母が畑仕事をしていると「もう戦争は終わったから、お宅のお父さんも帰ってこられるよ」と大声で言われた。家族で喜んでいたが、１９４５（昭和20）年１月に、中国の湖南省で戦死したとの知らせが来た。それからは毎日、悲しみに暮れた。戦死広報を見て、県にお骨を取りに行ったが、なかなか見つからず、お骨を家に連れて戻るまでに長くかかった。

それからは私も母を助けるため、小さな体で田畑を牛で耕すなど、学校を早引きして働いた。中学生になると、ノコで樫の木を切り炭焼きを始めた。いくつも窯を持っている人から、１回１俵（15kg）で借りて焼き、その炭で蚕を飼い、生活の足しにした。91歳になった今でも、勉強できなかったことが悔やまれる。

出征前に父がくれた言葉がある。「星ば見てみろ。父ちゃんも同じ星ば見よるぞ」。その言葉を胸に、ひとり何度も夜空を見上げた。３カ月の召集のはずだった。

いつまでも戦争のない平和であることを願う。

※1　戦時中の歴史的記録として紹介するもので、現在において差別や偏見を助長する意図はございません。歌詞全文は文集なごみ製本時に掲載予定です。

学校の話題

町内小中学校の様子をお知らせするため、定期的に掲載を行っています。

〈菊水中学校〉

10月11日㈰、菊水中学校文化祭を本校体育館で開催しました。

オープニングは吹奏楽部の「Let's swing♪」の演奏に始まり、１年生は、和水町の地域調べ学習と共に、福祉について考えた劇を、２年生は、戦後80年の節目に平和学習のまとめとして日常の有り難さをテーマに劇を披露しました。

そして、３年生は夏休み前から衣装や小道具、照明や音響など入念な準備や練習を積み重ね、壮大な劇「ハムレット」を演じました。

合唱コンクールでは、各学級ともに練習の成果を発揮しました。その中で３年１組が最優秀賞に選ばれ、学校代表として11月５日㈫に玉名荒尾中学校音楽会に出場して好評を得ました。

秋の深まりと共に、これまでの様々な学習の成果が実った文化祭でした。

また、10月15日㈫、郡市中体連駅伝大会が行われ、男子は大会新記録で優勝、女子は昨年度より記録を１分縮めて９位となりました。区間賞は、女子１区：坂井　優花さん、男子４区：辻本　愛琉さん、男子６区：隈部　侑成さんが獲得しました。

そして、男子は玉名荒尾郡市代表として11月７日㈮に熊本県中体連駅伝大会に出場し、全27チームが強豪校の中、６位に入賞しました。３区の隈部　侑成さんが区間２位、６区アンカーの辻本　愛琉さんが区間新記録で３位となりました。他の選手も力走して襷をつなぎ、全員がチームのために貢献しました。保護者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力とご声援、本当にありがとうございました。

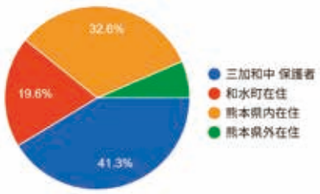
〈三加和中学校〉

起業体験活動 ～金栗マラソン大会での販売活動～

平成30年度から実施している起業体験活動。今年度は和水町商工会にお願いし、和水町の事業所を紹介していただき、三加和中生徒による５つの会社を立ち上げました。

今年は、紹介していただいた事業所が普段製作されている商品内容に、生徒のアイディアを取り入れてもらう形で商品化していただきました。今年度の販売商品は、回転焼き、米粉スコーン＆クッキー、ピザパン＆ベーグル、シフォンケーキ、コロッケでした。和水町の特産物をふまえて生徒が考えた商品でしたが、いかがだったでしょうか。

昨年度の販売では、金栗マラソン大会に参加した方々の手元に届かず、走り終わった後にがっかりされている方もいらっしゃったので、今回は販売方法を２回に分けたり、個数制限をさせていただいたりしました。ゲストランナーの野口みずきさんも来店され、購入していただきました。

事後のアンケートからも、熊本県内外のいろんな方に購入していただき、和水町の特産物について知っていただける機会になったようです。

商品を製造していただいた各事業所の皆さまはもちろん、ご購入していただいた方々、応援していただいた方など、たくさんの方々に支えられて今年度の活動を終えることができたことに感謝申し上げます。